

安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエンス研究推進委託事業

令和4年度に終了した試験研究課題の事後評価結果及び行政における研究成果の行政施策・措置への反映について

課題 番号	試験研究課題名 及び実施研究機関	実施 期間 (年度)	研究概要	評価所見	総 括 評 価	研究成果の行 政施策・措置へ の反映
22682 159	病原体の侵入・拡散防止のための効果的な小型野生動物・害虫対策の検討 【実施研究機関】 小型野生動物対策マニュアル策定に向けた基盤的研究コンソーシアム ・国立大学法人東京大学 ・(国研)農業・食品産業技術総合研究機構 ・学校法人ヤマザキ学園ヤマザキ動物看護専門職短期大学	R4	(背景・目的) 高病原性鳥インフルエンザ及び豚熱の発生事例においては、疫学調査チーム検討会の取りまとめ等として、ネズミ、イタチ等の小型野生動物の畜舎への侵入によるウイルス伝播の可能性が指摘されているところである。 しかしながら、これまで病原体の侵入・拡散防止を目的とした農場及びその周辺において活用可能で効果的な小型野生動物の防除・駆除方法は確立されておらず、生産現場における家畜衛生対策の推進のために総合的な対策マニュアルの整備が求められているところである。 このため、高病原性鳥インフルエンザや豚熱発生事例において畜舎への侵入リスク要因として問題となるネズミ等の小型野生動物の生態に関する既知の知見の収集及び畜舎内やその周辺における小型野生動物の農場間の動態や対策効果のデータを収集し、平時及び防疫措置実施時の効果的な防除方法の検証を行った。 (研究項目) ①プライベートデータベース作成 ②農場におけるネズミ対策のアンケート調査 ③生産現場におけるネズミ対策マニュアル策定に必要な試験研究の設計 (公募内容には害虫に関する研究が含まれていたが、研究予算の制約から契約時に除外されたため、本課題では小型野生動物に関してのみ研究を委託)	・ネズミ対策のアンケート調査により、農場におけるネズミ対策の現状が把握され、効果的なネズミの防除・駆除方法を開発するために必要となる試験研究の設計はほぼ達成されている。しかし、その想定される対策案の提示が不足している。また、生産現場におけるネズミ対策マニュアル策定に必要な試験研究の設計において、どのような農場でも取り組めることを意図してアンケート結果の下限に近い一万円程度で実施可能な対策を想定しているため、畜種、規模及び高価であるが更に効果的な方法等に関する検討が排除される懸念がある。 ・畜舎内や農場内におけるネズミ等の行動様式や行動圏、病原体への感受性等に関する論文を集約した文献リスト(プライベートデータベース)は、提案されたネズミ対策マニュアル策定に必要な試験研究を将来的に実施する際に有用であり、生産現場において活用可能で、効果的な防除・駆除対策を反映させたマニュアルの整備が期待できる。 ・期間内に開催された2回の推進会議を含め、適切に研究の進捗管理がなされた上で、専門性を十分に発揮して研究成果を出したことを評価する。	B	・研究成果で設計された試験研究を実施し、ネズミ対策マニュアルを策定 ・当該ネズミ対策マニュアルを基に、飼養衛生管理基準、特定家畜伝染病防疫指針等に対策内容の反映を検討

＜総括評価の説明＞

- A: 研究目標を達成し、研究成果を行政施策・措置に十分に活用できる。
- B: 研究目標の達成に至っていない部分もあるが、行政施策・措置に活用できる成果が得られている。
- C: 研究目標はやや達成されておらず、行政施策・措置への活用には更なる成果を要する。
- D: 研究目標の達成は不十分であった。